

地区名 山の下 地区の目標・目指す姿 年をとっても、障がいがあっても安心して暮らせるまちに！  
 実施日 令和6年1月26日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

- ・学校とのつながり  
 通学路の見守り活動にとどまらず、地域教育コーディネーターからの依頼で学校行事や校外学習などのお手伝いに行っている。  
 民生委員と山の下小学校、山の下中学校との情報交換会を開催している。
- ・地域の茶の間  
 歩いていける居場所として茶の間が開催されていて地域住民の交流の場となっている。
- ・介護予防体操  
 毎月開催を継続している。(体操10カ月、フレイル予防2カ月)参加者が25名から30名ほどあり、健康づくりや安否確認にも役立っている。
- ・まちの変化  
 新しい住宅地ができ、若い世代の住人が増えてきた。

地区の課題

- ・情報共有  
 ・市役所のごみ出し支援事業などの情報共有が図られるようになってきて、回覧板で住民にお知らせする自治会・町内会もある。
- ・生活の課題～顔の見える関係づくり  
 ・自治会・町内会長や友愛訪問員がキャッチした困りごとを、包括支援センターへつなぐことで安心できる。  
 ・助けられ上手になるように啓発活動を進めている。
- ・担い手の育成  
 ・活動者の高齢化が進んでいる。次世代の担い手の準備として、退職前の仕事をしている世代に地域にかかわってもらおうよう声かけが必要。まずは手伝ってもらおうところから関わってもらおう。

実行計画

- ①地域の問題解決のための会議を開催しよう
  - ・民生委員・児童委員と自治会・町内会長との情報交換と交流に向けた連携会議を毎年2月に開催する。
  - ・「迷惑をかけてはいけない」と思う人が多く、地域の中で「助けて」と言える関係づくりに向けて自治会・町内会の中で日頃から話し合っていく。
  - ・広報紙を手にとってもらいやすいよう、写真を活用した読みやすい誌面づくりを継続する。
- ②顔の見える関係づくりをしよう
  - ・まちづくりセンターのフリースペースが子どもの勉強やちょっとした打ち合わせに活用されている。
  - ・区役所や桃山地区と協働したイベント(山の下夜遊びランド、ハロウィンパーティー)が好評だった。みなとランドの遊具が人気があり、イベント等でキッチンカーも来るなど区外からも人が来る。若い世代の地域行事等の参加が増えたことから、今後もこのような取り組みを継続していく。
- ③災害時、要支援者への対応や協力体制の整備をしよう
  - ・地域住民に避難所等の詳細情報などをきちんとわかってもらうよう、回覧板等で情報共有を図っていく。
  - ・1月1日の地震の時に大山台に400人の人が集まった。仮設トイレやテントなどの整備に向けて行政に働きかけをしたい。

地区名 桃山 地区の目標・目指す姿 地域全体で協働し、地域交流の活発なまちに！  
実施日 令和6年2月5日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

- ・除雪やごみ出し支援  
除雪や草取りはボランティアで対応。ごみ出しはあゆみ会や自治会・町内会で対応している。
- ・地域の茶の間  
各所で開催しており、参加者だけでなく運営する側も楽しみに実施している。
- ・あゆみ会の活動  
ブロックごとにふれあい給食を開催。集合形式で弁当を持ち帰る形にしたが、楽器演奏の発表を行うなど開催方法を工夫しながら交流の機会をつくっている。
- ・支え合いのしくみづくり  
桃山校区助け合い・支え合いの会の定着と担い手確保に向けて取り組みを継続している。

地区の課題

- ・担い手育成  
現在は65歳まで仕事をしている人が多く、担い手となる世代の過渡期になっている。地域活動にどのように取り組んでいくかが課題である。
- ・災害時の対応  
令和6年能登半島地震では、津波警報発令により高台に逃げる人が多く、藤見中周辺は大渋滞だった。近隣の津波避難ビルとして桃山小、山の下中、桑名病院等があるものの、徒歩圏内ではない地区もあり避難場所の確保に課題がある。

実行計画

- ①問題をみんなで共有し、地域で顔が見える関係づくりをしよう
  - ・顔を合わせる機会を積極的に作っていく。
  - ・自治会・町内会の各班の横のつながりや、現在実施している自治会・町内会の祭りや交流活動などの取り組みを継続していく。
  - ・桃山孤立ゼロプロジェクトを取り組みを今後も継続し、地域住民と福祉機関の連携を強化していく。
- ②次世代の担い手を育てよう
  - ・あゆみ会のような地域福祉活動へのニーズは高く、継続的な活動とするためにより多くの方に参加してもらいたい。顔見知りの方がいると、地域福祉活動に参加する敷居が下がることがつながるので、隣近所で誘いやすくなるように自治会・町内会の声掛けやコミ協の広報により、住民の地域福祉活動への意識を高めていく。
- ③地域で見守り・助け合いができる環境づくりをしよう
  - ・民生委員やあゆみ会、自治会・町内会による見守り活動を今後も継続して取り組む。また、「助けて」言いやすい地域住民の関係性の構築に向け、ふれあい給食会や自治会・町内会の多世代交流行事を今後も継続的に実施し、隣近所で顔が見える関係性を構築する。
- ④町内の人たちが気軽に集う場所をつくろう
  - ・あゆみ会や自治会・町内会で実施する地域の茶の間を継続して取り組む。今後は、より参加しやすい運営内容や声掛けの工夫を検討していく。
  - ・桃山集会場や臨空会館など既存の場所を活用しながら、茶の間に限らず住民の参加意識が高まる講座や行事等の中身の充実を図っていく。

地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 東山の下 地区の目標・目指す姿 地域の力を総動員して、全域で見守り・生活支援活動ができる東山の下にしよう！  
開催日 令和6年1月29日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・じゅんさいの会

メンバーの高齢化により新規受付はしていないが、ごみ捨て支援は日常を支える支援であり、必要性が高いため継続している。今後は自治会・町内会にその役割を段階的に移行し、地域住民協働により解決していきたい。

・見守り体制

子どもの見守り隊が組織化されて5年経過し、メンバーの高齢化により現在55名の登録になっている。高齢者の見守りは、東山の下支会が友愛訪問事業を実施しており、手厚い体制(ボランティア約70名)で取り組んでいる。友愛訪問時に持参する絵手紙が高齢者に喜ばれている。

・交流事業

令和5年度は4年ぶりに「東山の下フェスティバル」を開催した。次年度も開催予定(6月第一日曜日)。ボランティアで中学生、高校生が参加してくれた。三世代交流大運動会を10月に開催予定。30年以上前から実施しており、藤見中グラウンドを会場に1,000人程度参加している。東山の下支会で年末に実施している歳末お楽しみ会は、コロナ禍でも開催形式を工夫しながら継続してきた。昨年末は従来の形式で開催した。

地区の課題

・人材の確保

ボランティアの人数はいるものの、リーダーとなる人の育成が課題である。皆さんできることを頑張って取り組んでいるが、時間のある人が地域活動に取り組むだけでは成り立たなくなる。仕事があっても、できる範囲で地域活動に参加してもらえるような働きかけができるとうい。若い力も取り入れていきたい。

実行計画

①コミ協と自治会・町内会単位で仕組みをつくろう

- ・ブロック会議(コミ協の組織体制を4つに分けたブロック制、自治会・町内会の細かい情報を得ることを目的とする)  
各自治会・町内会の地域活動を基本としながら、定期的に地区の課題共有を図り、東山の下全体の地域活動への意識を高めていく。
- ・移動支援(タクシーデマンド事業:令和5年度より本格実施、令和5年8月～会費1,000円、会員:150名程度)  
高齢者は通院が日常化しており、移動手段の確保に役立っている。コミ協の持ち出しが30～40万円程度あれば運用可能であり、今後も持続的に事業を実施できるよう、資金確保に取り組んでいく。
- ・こもれび交差点(週1茶の間として開催し、6年目となる)  
新規参加者が徐々に増え、常時40～50名程度参加している。男性の参加者も出てきており、コロナ禍を経て一時期より活気が出てきた。参加者をお客様にせず、役割があることが重要で、参加者と運営者といった形にとらわれない運営に取り組んでいく。また、他の茶の間との交流も図りたい。

②子どもから大人まで顔の見える関係づくりをしよう

- ・子どもの見守り  
交通安全推進協議会が中心となり、登下校時の児童の見守り活動を実施している。民児協やコミ協も協働し、今後も子どもの防犯・安全に取り組んでいく。
- ・各種イベントの開催  
東山の下フェスティバル(6月第一日曜日)、三世代交流大運動会(10月)、東山の下支会「歳末お楽しみ会」(12月)
- ・学校との連携  
地域教育コーディネーターとの連携により、学校の行事や総合学習への参加、小学生のこもれび交差点訪問、中学のボランティア部との交流会等の交流の機会を多く持っている。今後も継続して小学校・中学校との情報交換の機会を設け、コミ協・民児協・支会等それぞれの学校との連携を深めていく。

地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 下山  
開催日 令和6年2月2日

地区の目標・目指す姿

地域住民が健康で住みやすく、あいさつが活発なまちに！

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・各種交流事業

ふれあい祭りは内容を検討し盆踊りを行い、屋台やキッチンカーなど住民の楽しめる行事として開催した。お茶会は月1回下山コミハで継続開催している。三世代交流のレクリエーションを実施。

・子育てサロン

未就園児の親子の参加が多く、運営ボランティアが意欲的に活動に取り組むことで継続的な開催につながり、子育てしやすい環境づくりの一助となっている。また、育成協で子ども食堂を開催したいという意見もある。

地区の課題

・情報共有

避難行動要支援者への対応に向けて、令和6年元日の地震で起きた問題点を今後のどのように解決していくかが課題である。

・地域の茶の間

多くの自治会・町内会で開催されているものの、徒歩圏内に茶の間が無い地区もある。送迎バスの検討もあったが実現は難しく、移動手段の確保が課題である。

実行計画

①自治会・町内会と民生委員・児童委員との連携を深めよう

・自治会・民生委員児童委員協議会(年1回開催)

コロナ禍で中止していたが今年度再開した。情報共有は住みよいまちづくりには欠かせないため、今後も継続して開催していく。

・支え合いのしくみづくり会議

「下山コミ協支え合の会」が庭掃除・草取り等の支援をしている。今後は、必要な人が声をあげやすいよう、自治会・町内会との情報共有や広報を強化していく。

②顔の見える関係づくりを目指そう

・20年以上前から登校時のあいさつ声掛け見守り活動を実施している。また、青色パトロールカー活動も小学生に浸透しており、今後も子どもと大人の顔の見える関係づくりに向けた取り組みを継続していく。

③地域の茶の間の開催、活用の見直しをしよう

・コロナ禍で存続が危ぶまれる茶の間もあったが、徐々に活気が戻ってきた。今後も継続して活動を続け、参加者も増えていけるよう、コミ協で情報共有を図っていく。

(新)フレイル予防事業

・コミ協としてフレイル予防や介護予防の取り組みをしているが好評であり、令和6年度も継続して開催していく。

地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 紫竹中央  
開催日 令和6年2月13日

地区の目標・目指す姿

住んでいる人みんなが「幸せだなあ」と感じられるまちに！

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・交流事業

今年はコロナ5類移行後を中心に、一斉清掃、祭り、火の用心、消防訓練、餅つき大会、敬老祝い会などを実施し、子どもから大人まで触れ合う機会をつくれた。コロナの影響により、一部実施できなかった三世代交流イベントがあった。

・安心安全の取り組み

避難訓練や防災訓練、「火の用心」活動等、コミ協や自治会単位の防災活動が活発である。江南小学校区では定期的に避難訓練を実施し、一時避難所、指定避難所にするというルールづくりができています。また、一斉ライングループを作成している。

地区の課題

・集う場所が少ない

紫竹集会所は線路を跨ぐため高齢者にとってハードルが高い。また、地区内に大きな公園がなく、若い世代を含めた交流の場が生まれない。今後地区内にコミ協事務所を借り上げ、そこで茶の間を開催する予定。

・アパート世帯との交流が少ない

自治会活動には理解を示しているが、自治会の取り組みを周知しても反応が薄い。世帯票の提出について案内した際も、ほとんど反応がなかった。

実行計画

①地域ぐるみで子どもの安全を見守っていこう

- ・学校や地域の安全確保の取り組みを支援し、セーフティスタッフによる通学路の見守りを継続している。
- ・地域内の行事における多世代での交流を通し、子どもたちの日頃の見守りに繋げていく。

②災害時の助け合いの基盤をつくろう

- ・定期的な避難訓練の実施や、日頃から自治会で地域の情報収集に努めることで地域のつながりの基盤となる役割を果たしていく
- ・紫竹4区：避難行動要支援者リスト、80歳以上のリストを独自に作成。地図にマッピングし、震度6以上、津波警報が出た場合、避難後に自治会役員が訪問する決めごとを作った。
- ・紫竹4区南：自主防災組織において地区の班長が班員の安否を自治会長に報告することになっている。アパートマンション世帯に対し、リーフレット・文書による自治会活動の紹介や、一時避難場所の周知を行った。

③顔の見える関係づくりを進めていこう

- ・アパート居住者も含め、ごみ出しが地域内で挨拶をする機会になっている。
- ・老人会は積極的に活動に取り組んでいる。
- ・実家の茶の間閉所に伴い、新たな居場所としてR6.10月からコミ協主体の茶の間を新規立ち上げ予定。

地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 木戸  
開催日 令和6年2月24日

地区の目標・目指す姿

安心して暮らし続けることができる便利で楽しいまちに！

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・防災訓練の実施

木戸小校区、竹尾小校区、山木戸連合会で、それぞれ年に1回防災訓練を実施。その他、自治会単位で訓練を実施しているところもある。

・支え合いの取り組み

春に支え合いガイドブックを町内に追加配布。来年度も継続して配布し、今後修正をしながら高齢者への情報提供を進めている。

だんだんダンス等の介護予防の取り組みは参加者から好評であり、高齢者の健康増進につながっている。

地区の課題

・担い手の確保

ボランティア団体の高齢化や、地域の担い手不足が課題。若い世代と一緒に行事へ参加することで、次世代の担い手確保を狙っていく。

・子育て世帯への支援

子ども食堂は来てほしい層の参加が少なく、大半の参加者が大人である。継続するためにも小学校やひまわりクラブに周知する必要がある。

実行計画

①健康寿命の延伸～体が資本、体力を落とさない！

・だんだんダンス、健康ボウリング、高齢者料理教室を継続実施し、介護予防の取り組みに力を入れていく。

高齢者料理教室には小学生親子も参加しており、世代間交流につながっている。

・行事への男性参加者が少ない。特にボウリングは男性参加者も多いため、男性を取り込む行事や男性の茶の間をつくれるといい。

②地域を支える担い手を育てよう～楽しくなければ集まらない！

・イベント参加者に声掛けをしてスタッフを募ることで、運営者の負担軽減にもつなげていく。

・現在の担い手が学校行事やお祭りに足繫く参加することで若い世代とつながり、声掛けをすることで次世代の担い手、リーダーを発掘していく。

・防災訓練に竹尾小校区の中学生に全員参加してもらうことで、万が一に備えて若者の力を活用していく。

③地域のつながりづくりを進める！

・通学路でのあいさつが浸透しており、生徒から住民へ声をかけてくれることもある。

・木戸小校区では、自治会と民生委員・児童委員との連携のため情報交換会の開催を検討している。

・よつば学園との新たな交流が生まれている。生徒による木戸コミセンの定期清掃や、よつば学園主催の手話教室や文化祭への参加を通して、学校と地域との交流が深まった。

・公園や集会所、コミセンでの行事が活発であり、多世代の交流が生まれている。

地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 牡丹山  
開催日 令和6年1月31日

地区の目標・目指す姿

みんながいきいきと生活しているまち

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・住民同士の交流事業

寺山公園を中心とした多種多様な交流事業が充実し、多世代での賑わいがある。その他、コミハの事業も実施している。

・地域の居場所

地域の茶の間や健康体操等、高齢者の居場所づくりに力を入れている。また、子育て交流施設や子ども食堂等、子どもから大人までが集える居場所が充実している。

・医療・福祉団体との連携

医療生協や亀田郷芦沼会等の地元団体とのつながりが強い。日頃から顔の見える関係性を構築しておくことで、事業実施時においても円滑に連携できている。

・寺山公園は防災公園として、かまどベンチや防災トイレが備わっている。災害に強い地域として、こいこいフェスタ等で広くPRしていきたい。

地区の課題

・アパート居住者とのつながりの希薄化

自治会活動の内容や意義を理解しているアパート世帯が少ない。掲示板やゴミステーション活用するなど工夫をし、自治会等の地域活動を知らない住民にも広く周知していく必要がある。

・行事の参加者固定化

地域の茶の間やフレイル予防教室は特定の参加者しか集まらない。参加者が少数であることも課題。

実行計画

①安心して暮らせるまちづくりをしよう

- ・思いやり応援隊の活動継続。依頼募集だけでなく、活動担い手募集のための広報物を全戸配布。幅広い世代への周知、ボランティア獲得のために活動している。
- ・地域住民・専門職で構成された「おたがいさまのまちづくり実行委員会」では、医療生協、亀田郷芦沼会と協働し、認知症捜索模擬訓練や学習会を開催することで、誰もが安心して暮らせるまちづくりについて考える機会が増えている。

②地域の茶の間・居場所を活用しよう

- ・令和6年度、東区プラザ内3階に新たに学習室やイベントスペースができるため、子どもたちの新たな居場所としての効果に期待している。
- ・地域の茶の間や健康教室等、高齢者が生きがいをもって過ごせる居場所の参加者増に向けて取り組んでいく。
- ・R5年度から始めた、秋の集い体操等のコミハ事業を継続していく。

③地域で情報を共有しよう

- ・自治会長と民生委員・児童委員は日頃から地区ごとでの情報交換、連携は図れているが、全体交流の機会が減少。特に新任者が多いため、お互いの情報共有、顔合わせのための情報交換会を検討していきたい。

地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 大形  
開催日 令和6年1月30日

地区の目標・目指す姿

誰もが安心して住むことができ、多世代交流の活発なまちに！

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

・住民同士の交流事業

コロナの影響で実施できなかった催事が少しずつできるようになってきた。大形夏フェスin2023や餅つき大会、交流会などを実施。

・学校とのつながり

小中学校、県立大学、特別支援学校とのつながりができている。お祭りや地域活動等にボランティアとして参加してくれている。

地区の課題

・ボランティアの高齢化、担い手不足

登下校見守りの協力者が高齢化、減少していることで見守り空白地帯が出てきている。

じゃがいもの会のボランティア人数が減少傾向・高齢傾向。チラシを作りボランティアを募集しているがなかなか担い手が出てこない。

地域のキーマンとして思い浮かぶ人が少なく、担い手不足である。

・住民同士の関係性の希薄化

全自治会のうち約3分の1が一年で自治会長を交代するため顔が分からなく、顔合わせの会に出席しない地区がある。

一部の集合住宅が自治会を結成していないため実態が分からなかったり、個人情報への壁や心配な方自身もつながりを求めているという課題がある。

実行計画

①地域のつながり、顔の見える関係づくりを推進する

・まちづくりセンターを拠点に活動しているサークルがボランティアに活動するなど、つながりができてきている。

・通年、地域で小学校に出前講座に行っている。来年度は小学校への出前講座として、自治会の90代の方から戦争話を聞く講座を検討している。

・地元企業であるダイナム、一正蒲鉾とのつながりがあり、企業が積極的に地域活動に協力してくれている。

②安心安全なまちづくりを進める

・小学校前ほか、大形地区全体であいさつ声掛け運動をしている

・より実践的な避難所ごとの防災訓練を計画していきたい

③支え合いのしくみづくりを推進する

・1/27(土)に民生委員・自治会長向けの支え合いのしくみづくり勉強会を開催し、約60名が参加。今後も定期的にこのような取り組みができるとうよい。

・茶の間は8自治会で開催しており、順調に運営している。参加者が固定化し、新しい参加者が増えない点が課題。

・柳ヶ丘自治会のように生活支援の取り組みができている自治会がある。こういった取り組みがほかの自治会にも広がるとよい。

## 地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 南中野山  
開催日 令和6年2月10日

地区の目標・目指す姿

ちょっとした困りごとは地域住民同士で解決できるまちに！

### 地区別計画の進捗や意見・修正等

#### 地区の良いところ

- ・「ヘルプ南中野山」の活動が充実し、ボランティアのスキルアップ研修や支え合いのしくみづくり委員会など運営体制を強化させる取り組みを行っている。福祉専門職にも活動が認知されてきており、介護保険制度で対応できず困っている内容に対応することもある。
- ・各自治会で多世代交流の機会を積極的に設けている(サントピアワールドへの小旅行や餅つき大会、祭りなど)。
- ・フレイル予防に意欲的な住民が多く、フレイルチェックの日には定員を超える応募がある。
- ・民生委員児童委員と自治会の情報交換を年1回定期的に開催しており互いの顔を知る良い機会となっている。

#### 地区の課題

- ・困りごとの声の吸い上げが課題となっている。
- ・移動支援:実施に向けて情報収集はできており体制についても検討できているが運転手の担い手が見つからない。
- ・地域の茶の間が増えづらい原因の一つに、適当な場所がないことがある。

#### 実行計画

##### ①「ヘルプ南中野山」の活動を拡充する

- ・支え合いのしくみづくり委員会を開催している(開催頻度…定例会:月1回、総会:年1回)
- ・依頼件数:R4年度と比較するとR5年度は減少している。周知不足に加え、降雪状況やリピーターの減少が要因の一つであると考えられる。
- ・ささえあい通信を現在作成中。A3版を全戸配布予定。

##### ②みんなが集まり楽しめる居場所づくりをする

- ・子ども食堂:1件新たに始まったが現在休止中のところがある。立ち上げ時から地域の方が入れるとよかった。
- ・認知症サポーター養成講座の受講で終わらず見守り体制の構築を目指したい。勉強会の実施や、将来的には認知症カフェ立ち上げを見据えている。
- ・下校時パトロール隊や昔の遊びや笹団子づくりを小学校で行う取り組みなど大人と子どもが交流する取り組みを継続的に実施している。
- ・コミ協主催で健康教室を実施。月1回脳トレやしゃっきり体操などのフレイル予防を行っている。

##### ③民生委員児童委員と自治会の情報共有と連携強化

- ・情報交換会を年1回定期的に開催している。民生委員・自治会長互いの顔を知る良い機会となっている。

##### ④防災体制を充実させる。

- ・地域と小中学校が合同で年に一度防災訓練を行っている。
- ・有事の際に特定の人(民生委員や自治会長)に頼るのではなく、地域全体で支え合う方法を検討しようという声が挙がっている。
- ・自治会の自主防災組織の協力を得て、防災に関する研修会を実施しているが、自治会からの参加が少ない地域もある。幅広い参加があると良い。

地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況

地区名 東中野山  
開催日 令和6年2月14日

地区の目標・目指す姿

誰もが安心して住み続けられるまちを目指して！

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

- ・地域の茶の間が充実しており、住民にも活動が浸透してきている。
- ・自治会長と民生委員児童委員が情報交換する機会が定期的であり、連携が図れている。
- ・地域の助け合いを進める「支え合い応援隊」のボランティアに地域住民が積極的に登録している。(R6.2月時点252名の登録)

地区の課題

- ・地域の茶の間の参加者が高齢化し、運営側の負担が大きくなってきている(参加者みんなで運営する体制が難しくなっている)。
- ・買い物や通院に困難を抱える方が出てきているが、住民同士の支え合いで移動支援を行うにはハードルが高い。
- ・担い手の育成、確保が難しい。定年退職も延長されており地域活動に参加する機会が減っている。

実行計画

①誰もが地域で安心して暮らしていけるためのネットワークを充実させる

- ・地域の茶の間:コロナの影響により減少していた参加人数は徐々に回復している。自治会の協力体制を確保しながら運営することができている。
- ・支え合い応援隊:草むしりや雪かきなど屋外の活動に加え、電球交換や障子貼り、換気扇掃除といった屋内の活動依頼も出てきている。支え合い応援隊の登録者が252名おり、実際に活動する人が限定されてしまっている。今後ボランティアに対し説明会を開催する予定を立てている。
- ・高齢者や障がいのある方の移動問題:地域の茶の間への移動手段の確保な方が出てきている。自力での買い物が難しくなり、介護保険制度を利用する人が出てきている。
- ・防災訓練:能登半島地震による避難の際、車いすを使用している方など階段昇降に手助けが必要な方の存在が分かり、今後対応について検討が必要。年1回地区全体で避難所開設訓練を実施、より具体的な内容の訓練を18各自治会で実施している。

②自治会と民生委員・児童委員との連携を強化する

- ・自治会長と民生委員児童委員の意見交換会を定期的を開催しており、関係が近くなってきている。
- ・自治会により自治会長が1年ごとに交代するところがあり、顔の見える関係性を築く際の課題になっている。

③担い手の育成

- ・次世代の巻き込み:次世代を巻き込むアイデアが難しい。以前は「みんなの広場」に子どもが多く参加していたが最近では高齢者が中心の居場所となっている。
- ・定年退職が延長され地域活動へ参加する機会の確保が難しくなっている。企業のボランティア休暇制度などがあると良い。

地区名 中野山 地区の目標・目指す姿 安心して暮らしてつづけたい美しいまち  
開催日 令和6年2月7日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

- ・コミュニティ協議会と小中学校が連携できており、多世代が集い地域活動を行う機会が多い。
- ・防災意識が高く、年1回合同防災訓練を定期開催している。避難訓練から避難所運営の訓練にも着手し発災時からその後の生活をイメージした訓練を実施している。
- ・介護予防(フレイル予防)の取り組みを積極的に行っている。

地区の課題

- ・多世代の交流機会や介護予防の取り組みなど様々な取り組みをコミュニティ協議会が中心となり実施しているが、参加者が特定の人を中心になりがち。本当に参加していただきたい人(孤立している人や介護予防が必要な人など)に情報を届け、参加してもらうことが難しい。
- ・地域の茶の間など居場所について、コロナ以降大勢の集まりを希望しない高齢者が増えた。
- ・経済的な課題を抱える世帯が多く、有償での支え合い活動(生活支援)がなじまない。

実行計画

①顔の見える関係づくりを推進する

- ・石山中学校区全体の挨拶運動を小中学校と連携し継続的に活動できている。4年目を迎え少しずつ地域に浸透してきている様子がある。通学以外でも子どもと大人の挨拶する習慣ができている。
- ・地域の花植えなど大人と子どもがふれあう機会ができているが、コロナ以降高齢者の参加が乏しくなっている。
- ・コミュニティ協議会とPTAの連携により輪投げやいきいき広場などの活動に子育て世代の巻き込みが図れている。

②非常時にも対応できる仕組みづくりを推進する

- ・高齢者など情報弱者に対し、必要な情報を届けるため地域の社会資源情報などを掲載したガイドブック(お助けブック)を作成している。
- ・年1回合同防災訓練をしており、今までは避難訓練形式で実施していたが、一昨年より避難所運営にも着手している。
- ・1/1の能登半島地震の際に学校避難の際、ペット連れの避難者や車いす利用者等自力で階段昇降が難しい方がいる状況が分かった。災害時要支援者名簿にのっていない、手助けが必要な方の情報収集が課題。

③気軽に誰もが集える居場所づくりを推進する

- ・地域の茶の間について、身近なところへの設置・気軽に参加できる工夫が必要。コロナ以降大勢の集まりを避ける高齢者が増えている。中野山小学校から新石山団地方面に地域の茶の間が充実するとよい。
- ・コミュニティ協議会でフレイル予防の事業を実施しているが、参加者は普段から活動的な方が多く、本当にフレイル予防が必要と思われる方の参加が乏しい。

④美しい環境づくりを推進する

- ・石山中学校生がAKG(あかるくきれいにげんきに)活動を計画し、小学生・中学生・地域の大人が一緒になり実施している。

地区名 江南 地区の目標・目指す姿 安全で住みやすく、安心な暮らしのできるまちづくりを！  
開催日 令和6年2月9日

地区別計画の進捗や意見・修正等

地区の良いところ

- ・コロナの影響により中止していた各行事が再開。紙ヒコーキ選手権やこどもの映写会、食育活動など多世代が交流する企画を実施できている。
- ・コミ協主催事業について、長期間継続している事業が複数ある。
- ・地域活動に新たに参加していただくことを目的に「最初の一步カード」を実施。
- ・江南お助け隊(住民による生活支援)の活動が3年目を迎え、地域に定着してきている。

地区の課題

- ・担い手の確保:コミ協主催行事などを通じて子育て世代の関わりができていますが、関わる方が一部の人に限定されている。
- ・アパートが多い地区であり子育て世代も多く居住しているが、個人情報保護法が障壁となりつながりを作れずにいる。
- ・情報収集において格差が広がっている。デジタルの時代に高齢者がついていけない状況がある。

実行計画

①後継者と若い人を育成しよう

- ・紙ヒコーキ選手権やこどもの映写会、食育活動など多世代が交流する企画を実施している。
- ・コミ協教育文化部にPTAから入ってもらっているため子育て世代の関わりが作れている。
- ・コミ協主催事業を長期間にわたり継続しているが、若い世代は仕事があり参加が乏しい。
- ・定年退職後地域活動に参加する意識が低いため、自治会当番が定期的に回ってくる仕組みの工夫をしている。  
人の力を地域の宝として「地域の人財バンク」みたいな取り組みができると良い。

②地域住民の関係づくりを強めよう

- ・健康増進と地域活動に参加してもらうことを目的に「最初の一步カード」を実施。  
年2回健康講座を開催し、受講者に対し自分で目標を立て、達成度に応じて記念品を渡している。
- ・個人情報保護法「つながり」の障壁になっている。
- ・アパートが多い地区であり、アパートに子育て世代が入居していることが分かっているがつながれない。

③支援のためのネットワークづくりをしよう

- ・江南お助け隊の活動が3年目。延べ100回を超える活動ができている。
- ・コミ協と社協江南支会が共催で「福祉のまちづくり研修会」を企画。福祉に携わる人が多く交流できる機会となっている。